

町に彩りハンギングバスケット 花と緑のまちづくり推進委員会が設置

毎年恒例となっている町内に飾るハンギングバスケットの製作を5月30日、入江緑化ハウスで行いました。参加したのは、洞爺湖すみれの会の会員17人。

同バスケットは、草花などを植えた吊り鉢のことで、街路樹などに吊り下げて楽しめます。

今回製作したのは、トルミエアパターンとワイヤープランツパターンの4段バスケットで、トルミエアや球根ベコニアなどそれぞれ8種類の花を組み合わせ、56基作りしました。

作り上げたバスケットは6月13日、洞爺湖温泉やJR洞爺駅前など28カ所に設置されました。



ハンギングバスケットを製作するすみれの会のメンバー

5月31日、ふる里の丘総合福祉館共同畑で、芋植え交流会が行われ、幸生園とケアハウスの入居者の皆さんと本町、入江保育所の園児らが、一緒に芋植えを行いました。

当日参加したのは、同館から10人のお年寄り和本町保育所の4、5歳児13人に入江保育所5歳児8人の31人。

園児らは、秋の収穫を楽しみに「大きくなーれ」と願いながら、一つひとつ丁寧に芋を植えていきました。

作業終了後は、同館内で園児らが入居者の皆さんに歌を披露し交流を深めました。

芋植えで交流 お年寄りと町内保育所園児たち



入居者の皆さんと一緒に芋を植える園児たち

平成29年度洞爺湖町少年の主張大会（洞爺湖町青少年健全育成連絡協議会主催）が、6月6日、虻田ふれ合いセンターで行われ、町内各中学校から6人が参加し、熱弁をふるいました。

最優秀賞は、石井陽さん（洞中3年）で、「ふるさとを誇りに思うために」と題して、ジャガイモ「とうや」のPR活動を通して、自分の地域の素晴らしさを改めて実感したことを訴えました。

その他の賞は次のとおり。

▽優秀賞 伊藤葵さん（虻中3年）・大和くるみさん（同）▽優良賞 大西浩生さん（洞中2年）・佐長礼弥さん（洞中3年）・川又清寧さん（虻中3年）



表彰状を手に記念撮影に臨む生徒たち

洞爺湖町少年の主張大会 石井さん（洞中）最優秀賞受賞

地元産ワカサギ学校給食に登場 子供たちが郷土の味を堪能

6月9日、洞爺湖で捕れたワカサギが町内の小、中学校の給食に登場し、郷土の味を堪能しました。地元水産物としてワカサギのおいしさを知ってもらおうと、洞爺湖漁業協同組合が、2年魚48^{キログラム}を無償提供しました。

洞爺湖のワカサギは、1912年に霞ヶ浦から移殖され、年間の漁獲量は約1トン。フライ、てんぷらなどのほか甘露煮などでも食べられています。

とうや小学校の4年生の学級では、13人の児童がチリソース味に仕上がったワカサギフライをおいしくたいらげていました。洞爺地区の小、中学校では、8日もワカサギが献立として提供されました。



ワカサギフライをおいしそうに頬張る児童たち

まちのわだい